



右 4人のパネリストが意見を交わしたパネルディスカッション
左上 ゲイビマンプロジェクト委員会によるゲイビマンショー
左下 基調講演を行った(株)JTB東北の阿部昌孝さん



市の平成20年度地域おこし事業実践者発表会は2月8日、川崎公民館で開催されました。市が活力ある地域づくりを推進しようとして18年度から行っている同事業の成果を披露し、実践者同士の仲間づくりや連携に発展させたいと行われた発表会に、同事業実践者や自治会関係者ら約80人が参加しました。

観光産業と地域づくりの連携で経済活動に発展を

当市出身で(株)JTB東北交流文化事業部の阿部昌孝地域貢献推進部長が「これからの東北の観光戦略」の演題で基調講演。阿部部長は「最近の旅行は物見遊山型から現地の自然や文化、食

などの体験型に変化している」と指摘。「住民が地域独自の魅力や資源に誇りを持ち、生き生きとしている地域はよそのお客を引き付ける。観光産業と地域づくりが連携することで魅力を発信し、地域おこしを経済活動につなげてほしい」と訴えました。

で交流を深められた」と成果を述べました。

その後4人が事例を発表。一関も文化研究会の東海林明弘さんは、▽もち食文化の聞き取りと再現▽小学校でのもち本膳体験▽もち本膳を体験するもち道場の開催―など3年間の活動を紹介します。一関市少年少女発明クラブの千葉邦夫さんは、各種工作などの活動を紹介しながら「子どもの工夫する力を伸ばし、この地からノーベル賞受賞者を出すのが夢」と語りました。

「組合にはさまざまなジャンルの人間がいるので、事業に観光の視点を入れたいと思う」(金野さん)など、人を呼び込む地域資源の魅力という観点から各パネリストが発言。阿部部長は「本日発表いただいた事例を連携させるだけでも大きな成果で、今日の目的が達成されるのでは。自分も旅行業の観点から応援していきたい」とまとめました。



- 1 消防団纏組(まといぐみ)による見事なはしご乗り
- 2 通りいっぱいひしめき、駆け出しの合図を待つ裸男たち
- 3 水かけ終了後、輪になって水を浴びる「納め水」
- 4 大しめ縄奉納修祓式(しゅうばつしき)で、厄払いを受ける当り者たち
- 5 祭りを盛り上げる「加勢人」(かせつと)の子どもたち
- 6 御輿(みこし)をはじめ、おはやしや太鼓の山車、消防団が大原商店街を練り歩きます
- 7 力強い演技を披露した鹿踊り
- 8 商店街を回る仮装手踊り



それぞれの願い懸け通りを疾走

大東大原
水かけ
祭り

一関市・大東大原水かけ祭りは2月11日、大東町の大原商店街で行われました。火防や厄よけなどの願いを懸けて、県内外から参加した260人の裸男たちが「清め水」を浴びながら通りを疾走。351年の歴史を誇る「天下の奇祭」を見ようと、約2万8千人の観客が通りを埋め尽くしました。

午後3時、いよいよ水かけがスタート。合図と共に裸男が通りを駆け出すと、おけを手にした沿道の観衆から一斉に「清め水」が。冷たい水を全身に浴びて雄たけびを上げながら通りを駆け抜ける裸男たちに、「がんばれ」などの声も盛んに掛けられました。裸男の後は、祭りを盛り上げる「加勢人」と呼ばれる子どもたちが、まんじゅうがさと独特の装束をまとって続きました。

5区間約500mを疾走した裸男たちは、達成感でいっぱいの子。最後は隣同士肩を組んで輪になり「納め水」を浴びました。

水かけに先立っては、消防団によるまとい振りや仮装手踊り、鹿踊り、おはやしや太鼓の山車などが通りを練り歩き、真冬の祭りを熱く盛り上げ、観客を魅了しました。